

令和5年度 シラバス

教科名 地歴・公民

愛媛県立宇和高等学校

地理総合

愛媛県立宇和高等学校

教科	地理歴史	単位数	2	対象	生物工学科1年 普通科1年	
使用教科書	地理総合 (東京書籍)	副教材等	標準高等地図 (帝国書院)	履修	必修・選択	
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路		
<p>持続可能な社会づくりを目指すために、環境条件と人々の生活との関りに注目し、現代の地理的な諸課題を考察する。また、グローバルな視点から国際理解や国際協力の在り方を学ぶ。さらに地域的な視点から防災等の諸課題への対応を考察するとともに、地図やGISなどを用い、実践的な地理的技能を身に付ける。</p>		<p>・地理的事象を理解し、地図やGIS等を用い、調べ・まとめる技能を身に付ける。 ・地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、説明する力を養う。 ・よりよい社会を実現するための課題を主体的に追究・解決する態度、多様な生活文化を尊重する態度を養う。</p>		<p>・地理歴史の基礎となるもので、必修である。 ・普通科で2年次にII型を選択した者は、地理探究または歴史探究を履修する。</p>		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	一 学 期	第1編 地図やGISでとらえる現代世界	第1章 私たちが暮らす世界	1 緯度・経度 2 地球儀と世界地図 3 日本の位置と領域		
		第2編 国際理解と国際協力	第2章 地図や地理情報システムの役割 第3章 資料から読み取る現代世界 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 1 節 生活文化の多様性と国際理解 2 節 生活文化と自然環境①地形	4 地図の種類 5 地形図のルール 6 主題図の種類と読み取り 7 GISと地図 8 交通の発達 9 情報通信の発達 10 国境を越える人々の移動 11 拡大する貿易 12 つながる世界、多極化する世界 13 文化の地域性と多様性 14 宗教と生活 14 宗教と人々の暮らし 15 山地の暮らし 16 平野の暮らし 17 海岸の暮らし		
	二 学 期		3 節 生活文化と自然環境②気候 4 節 生活文化と産業 第2章 様々な地球的課題と国際協力 1 節 地球環境問題 2 節 資源・エネルギー問題 3 節 人口問題 4 節 食料問題 5 節 都市問題 6 節 民族問題	18 多様な気候とその分布 19 熱帯 20 乾燥帯 21 温帯 22 亜寒帯・寒帯の生活 23 食生活と農業分布 24 工業立地の変化 25 商業立地と生活 26 情報産業と生活の変化 27 地球環境問題① 28 地球環境問題② 29 資源問題 30 化石燃料再生可能エネルギー 31 途上国の人口問題 32 先進国の人口問題 33 食料需給問題 34 途上国の居住・都市問題 35 先進国の居住・都市問題 36 民族難民問題		
三 学 期	第3編 持続可能な地域づくりと私たち	7 節 持続可能な社会の実現 第1章 自然環境と防災 1 節 日本の自然環境の特色 2 節 様々な自然災害と防災 第2章 生活圏の調査と地域の展望	37 地球的課題と国際協力 38 日本の地形の特色 39 日本の気候の特色 40 地震・津波災害① 41 地震・津波災害② 42 火山災害と恵み 43 気象災害① 44 気象災害② 45 都市と自然災害 46 防災・減災と復旧・復興 47 調査テーマの設定 48 地域調査① 49 地域調査② 50 まとめと発表			
学習方法	<p>【授業】 授業に集中し、内容の理解に努める。地図帳・ICT機器の使用、グループワークの実践等を行う。 【復習】 学習プリントを中心に復習し、国家や都市、地形の特徴等を地図帳で確認する。 【予習】 教科書を読み、図を見てイメージを膨らませる。</p>					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	<p>・世界の生活文化の多様性、防災、地域地球的課題への取組を理解している。 ・地図やGIS等を用い、地理に関する様々な情報を適切かつ、効果的に調べまとめている。</p>		<p>・地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的、多角的に考察できる。 ・地理的な課題の解決に向け、考察、構想したことを効果的に説明、表現している。</p>		<p>・地理的事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会を実現するために、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	
評価方法	1 学期		2 学期		3 学期	年度末
	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		(評価方法) などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

歴史総合

愛媛県立宇和高等学校

教科	地理歴史	単位数	2	対象	普通科1年		
使用教科書	高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来 (第一学習社)	副教材等	標準高等地図 (帝国書院)	履修	<input checked="" type="checkbox"/> 必履修・選択		
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路			
主に、近現代の歴史を中心に、その変化に関わる諸事象について、世界と其中における日本を広く相互的に捉えながら歴史を学習する。また、現代的な諸課題がどのように形成されたのか、それに関わる近現代の歴史について考察する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界と日本の歴史的事象を広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解し、調べ・まとめる技能を身に付ける。</li> <li>近現代の歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、説明する力を養う。</li> <li>よりよい社会を実現するための課題を主体的に追究・解決する態度、多様な生活文化を尊重する態度を養う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>地理歴史の基礎となるもので、必履修である。</li> <li>普通科で2年次にII型を選択した者は、歴史探究または地理探究を履修する。</li> </ul>			
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ	
	一 学 期	第1部 歴史の扉 第2部 近現代の世界と日本	第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 工業化の進展と国民国家の建設	①歴史と私たち ②歴史の特質と資料 ①18世紀の東アジアの政治と国際秩序 ②18世紀の東アジアの経済と社会 ③国際商業の展開 ④産業革命 ⑤アメリカ独立革命 ⑥フランス革命 ⑦ウィーン体制の成立と崩壊 ⑧イギリスの平和 ⑦後発国による上からの近代化 ⑧アメリカの膨張とアジア・太平洋政策			
	二 学 期	第3節 結び付く世界と日本の開国 第4節 帝国主義とアジア諸国の変容 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第一次大戦と大衆社会 第2節 経済危機と第二次大戦 第3節 大戦後の世界と日本	①オスマン帝国の衰退と西アジア ②ヨーロッパのアジア進出 ③東アジアの動揺 ④東アジア情勢と改革 ⑤明治初期の日本の外交 ⑥大日本帝国憲法の制定 近代化と現代的諸課題 ①帝国主義諸国の世界分割 ②日清戦争と中国分割 ③日露戦争とアジアの変化 ④日本の帝国主義と東アジア ⑤産業革命と労働運動 ⑥国民統合と教育 近代化と現代的な諸課題 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題				
	三 学 期	第3章 グローバル化と私たち 第1節 冷戦と植民地化・第三世界の台頭 第2節 世界秩序の変容と日本	①アジア諸国の独立・第三世界 ②キューバ危機 ③高度経済成長 ④ベトナム戦争と文化大革命 ①石油危機と西アジアの変容 ②アジアの経済成長 ③冷戦終結とソ連解体 ④冷戦後のアメリカと社会 ⑤グローバル化の光と影 ⑥時代の転換点 現代的な諸課題の形成と展望				
学習方法	<p>【授業】 授業に集中し、資料の読解や内容の理解に努める。ICT機器の使用、グループワークの実践等を行う。</p> <p>【復習】 教科書・ワークシートを中心に復習し、学習した地域や都市等を地図帳で確認する。</p> <p>【予習】 教科書を読み、図を見てイメージを膨らませる。</p>						
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的事象について、世界と其中の日本を広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解しているか。</li> <li>歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付けているか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的事象の意味や意義、特色や相互関連を多面的、多角的に考察できるか。</li> <li>歴史的な課題の解決に向け、考察、構想したことを効果的に説明、表現しているか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的な事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会を実現するために、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしているか。</li> </ul>		
評価方法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		1学期	2学期	3学期	年度末	
			(評価方法) などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)							

地理探究

愛媛県立宇和高等学校

教 科	地理歴史	単位数	2	対象	普通科2年Ⅱ型		
使用教科書	新詳地理探究 (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)	副教材等		新詳地理資料 COMPLETE2023 (帝国書院)	履修 必履修・ <input type="checkbox"/> 選択		
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路			
地理総合で学習した基本的な知識や技能を基に、世界各地の多様な地理的事象の特徴や現代世界が抱える課題について、系統地理(地形・気候・産業・経済など)・地誌(特定の地域)の2つの側面から考察・探究する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的事象を理解し、地図やGIS等を用い、調べ・まとめる技能を身に付ける。</li> <li>・地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、説明する力を養う。</li> <li>・よりよい社会を実現するための課題を主体的に追究・解決する態度、多様な生活文化を尊重する態度を養う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次にも続けて履修する。</li> <li>・大学入学共通テストで地理探究を試験科目として利用できるレベルを目指す。</li> </ul>			
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ	
	一 学 期	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境	序節 地球環境と人間 1節 地形 2節 気候 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題	1 地形の成因と地球表面の起伏 2 大地形 3 小地形 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 気候区分 4 気候帯 5 気候変動と異常気象 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み 1 地球環境問題 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み			
		二 学 期	第2章 資源と産業	1節 農林水産業 2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業	1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界・日本の農業の現状と課題 4 世界と日本の林業・水産業 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用 1 資源・エネルギーをめぐる課題と問題 1 工業の発達・種類・立地 2 世界の工業地域 3 工業の現状と課題 4 工業の知識産業化 5 日本の工業		
			三 学 期	第3章 交通・通信と観光・貿易	6節 第3次産業 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏	1 経済発展と第3次産業 2 商業の現状と変化 3 商業以外のさまざまな第3次産業 1 世界を結ぶ交通 2 日本の交通の特徴 3 情報通信の発達 1 余暇の拡大と観光産業 2 日本の観光と変化 1 世界の貿易と地域間格差 2 貿易の自由化と経済連携 3 日本の貿易	
学習方法	<p>【授業】 授業に集中し、内容の理解に努める。地図帳・ICT機器の使用、グループワークの実践等を行う。</p> <p>【復習】 演習ノートを中心に復習し、国家や都市、地形の特徴等を地図帳で確認する。</p> <p>【予習】 教科書を読み、図を見てイメージを膨らませる。</p>						
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の自然環境・資源と産業・交通や通信・観光や貿易について理解している。</li> <li>・地図やGIS等を用い、地理に関する様々な情報を適切かつ、効果的に調べまとめている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的、多角的に考察できる。</li> <li>・地理的な課題の解決に向け、考察、構想したことを効果的に説明、表現している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会を実現するために、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> </ul>		
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。	1学期	2学期	3学期	年度末		
		(評価方法) などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均		
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)							

# 日本史探究

愛媛県立宇和高等学校

教 科	地理歴史	単位数	2		対象	普通科2年
使用教科書	日本史探究（東京書籍）	副教材等	最新日本史図表（第一学習社）		履修	必修修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路		
日本列島に生きた人々の営みや当時の社会について、歴史的な見方・考え方を働かせながら、諸資料をもとに探究する。先史・古代、中世、近世を学習内容とする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する。</li> <li>・よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究するとともに、探究の際に必要な視点や方法を身に付ける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件はありません。</li> <li>・3年次にも続けて履修します。</li> </ul>		
学 習 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メモ
	一 学 期	第1編 先史・古代の日本と東アジア	第1章 先史社会の生活と文化 第2章 歴史資料と先史古代の展望 第3章 古代社会の形成と展開 1節 律令国家の形成と古代文化の展開 2節 撰関政治と貴族文化	1 旧石器時代の日本 2 縄文文化 3 弥生文化と小国家の形成 1 先史・古代の歴史を組み立てる資料の特質 2 東アジアとの交流のなかでうかびあがる歴史 3 木簡が語る律令国家の実態 1 大和王権と古墳文化 2 飛鳥の朝廷と文化 3 律令国家の形成と白鳳文化 4 平城京と天平文化 1 平安遷都と唐風文化 2 貴族社会と撰関政治 3 国風文化		
	二 学 期	第2編 中世の日本と世界	第1章 中世社会の成立 第2章 歴史資料と中世の展望 第3章 中世社会の展開 1節 武家政権の成立と朝廷 2節 武家支配の広がりや国際交流	1 朝廷政治の変容 2 武士の政治進出 1 武家権力による日本社会の変容 2 厳しい自然環境での人々の生存戦略 3 中世日本の国際交流 1 鎌倉幕府の誕生 2 執権による政治 3 モンゴル襲来と社会の変貌 4 鎌倉の仏教と文化 1 南北朝の動乱と室町幕府の成立 2 倭寇と東アジア国際交流 3 室町時代の社会と経済活動 4 自立する戦国大名 5 室町文化		
	三 学 期	第3編 近世の日本と世界	第1章 近世社会の形成 第2章 歴史資料と近世の展望 第3章 近世社会の展開 1節 幕藩体制の確立	1 地球的世界の形成と日本 2 織豊政権による全国統一 3 桃山文化 1 参勤交代と幕藩体制 2 百姓たちの生活世界 3 江戸時代の対外関係 1 江戸幕府と大名・朝廷 2 近世の身分と人々の暮らし 3 アジアのなかの幕藩体制 4 武断政治から文治政治へ 5 幕藩体制下の社会の発展		
学習方法	<b>【授業】</b> 授業に集中し、資料の読解や内容の理解に努める。ICT機器の使用、グループワークの実践等を行う。 <b>【復習】</b> 教科書・ワークシートを中心に復習する。 <b>【予習】</b> 教科書を読み、その時代や歴史的事象に関する「問い」を立てておく。					
評 価 の 観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。</li> <li>・歴史に見られる課題を把握し、課題解決を視野に構想、説明、議論することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。</li> </ul>			
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。	1 学期	2 学期	3 学期	年度末	
		(評価方法) などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

# 日本史B

愛媛県立宇和高等学校

教 科	地理歴史	単位数	2		対象	普通科3年 I型
使用教科書	詳説日本史改訂版（山川出版社）	副教材等	最新日本史図表（第一学習社）		履修	必履修・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">選択</span>
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路		
近世以降の日本の歴史を学びます。世界情勢と国内の動きを関連付けながら、幕藩体制の成立過程とその崩壊について理解していきます。		・幕藩体制を崩壊させた要因について考察し、近代国家の基盤を形成した明治維新の意義について理解する。		・2年次に日本史Bを履修していること。 ・大学進学には対応していませんが、進学希望者には、個別の補習で対応していきます。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	1 学 期	第5章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場			
		第6章 幕藩体制の確立	1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造			
		第7章 幕藩体制の展開	1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化			
		第8章 幕藩体制の動揺	1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道			
	2 学 期	第9章 近代国家の成立	4 化政文化 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達			
		第10章 二つの世界大戦とアジア	1 第一次世界大戦と日本 2 フントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦			
	3 学 期	第11章 占領下の日本	1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和			
		第12章 高度成長の時代	1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ			
		第13章 激動する世界と日本	1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の変容			
学習方法	<p>【予習】 該当範囲の教科書を読み、予習プリントを完成させましょう。</p> <p>【授業】 歴史は現代の社会とつながっています。歴史の流れをイメージして、説明を聞くようにしましょう。板書をノートに取るとともに、説明の内容をメモするなどして、話を聞き逃さない工夫をしましょう。</p> <p>【復習】 該当範囲の教科書・図表・ノートを振り返り、「分からない」ところを調べたり質問したりしましょう。</p>					
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能		知識・理解	
	・歴史を学ぶことの大切さや楽しさを知り、自分から探求しようという意欲をもっているか。(20%)	・諸事象の展開や成立に対し、実証的な考察を行い、自分の言葉で意見を発表できているか。(20%)	・ビデオ鑑賞や読物プリントを読んだ後の感想を、歴史用語を使って、図表などにまとめることができるか。(20%)		・歴史用語を正しく使えるか。我が国の歴史の展開を、世界的視野に立って、総合的に理解しているか。(40%)	
評 価 方 法			1学期	2学期	3学期	年度末
	※上記の4つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		(評価方法) 定期考査、課題、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを基に、上記の4つの観点から総合的に評価する。(考査点は全体評価の8割程度)			1・2・3学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

日本史B

愛媛県立宇和高等学校

教科	地理歴史	単位数	3	対象	普通科3年 II型	
使用教科書	詳説日本史改訂版(山川出版社)	副教材等	最新日本史図表(第一学習社)	履修	必履修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択	
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路		
近世以降の日本の歴史を学びます。世界情勢と国内の動きを関連付けながら、幕藩体制の成立過程とその崩壊について理解していきます。		・幕藩体制を崩壊させた要因について考察し、近代国家の基盤を形成した明治維新の意義について理解する。		・2年次に日本史Bを履修していること。 ・大学進学希望者については、個別に補習を実施します。		
学年 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	1 学 期	第7章 幕藩体制の展開	1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化			
		第8章 幕藩体制の動揺	1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化			
		第9章 近代国家の成立	1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達			
2 学 期	第10章 二つの世界大戦 とアジア	1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦				
	第11章 占領下の日本	1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和				
	第12章 高度成長の時代	1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ				
3 学 期	第13章 激動する世界と日本	1 経済大国への道				
		2 冷戦終結と日本社会の動揺				
学習 方法	<p>【予習】 該当範囲の教科書を読み、予習プリントを完成させましょう。</p> <p>【授業】 歴史は現代の社会とつながっています。歴史の流れをイメージして、説明を聞くようにしましょう。板書をノートに取るとともに、説明の内容をメモするなどして、話を聞き逃さない工夫をしましょう。</p> <p>【復習】 小テストを実施します。できなかった問題は繰り返し解くことで、必ず定着させるようにしましょう。</p>					
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解		
	・歴史を学ぶことの大切さや楽しさを知り、自分から探求しようという意欲をもっているか。(10%)	・諸事象の展開や成立に対し、実証的な考察を行い、自分の言葉で意見を発表できているか。(30%)	・ビデオ鑑賞や読物プリントを読んだ後の感想を、正しい歴史用語を使って、図表などにまとめることができるか。(20%)	・歴史用語を正しく使えるか。 ・我が国の歴史の展開を、世界的視野に立って、総合的に理解しているか。(40%)		
評 価 方 法	※上記の4つの観点を基に、各学期ごとに評価する。	1 学期	2 学期	3 学期	年度末	
		(評価方法) 定期考査、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の4つの観点から総合的に評価する。 (考査点は全体評価の8割程度)				1・2・3学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

地 理 A

愛媛県立宇和高等学校

教 科	地理歴史	単位数	3	対象	普通科・生物工学科3年
使用教科書	地理A (東京書籍)	副教材等		新詳高等地図 (帝国書院)	履修 必履修・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">選択</span>
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路	
現代世界の地域ごとの生活や文化、特や動向・地域間の結びつきなどについて学び環境・資源・人口などの課題について意識を高め、それらを解決するために何が必要かを考える。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の諸地域の多様な地域性を歴史的背景、民族や宗教などとの関連を踏まえて、地理的な見方や考え方を培う。</li> <li>・現代世界の地理的な諸課題に対する関心を高め、意識的に追求しようとする姿勢を養う。</li> </ul>		・条件なし。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容		メ モ
	一 学 期	第1編 現代世界の特徴と動向	第1章 地球儀や地図からとらえる世界 第2章 結びつく現代世界	1 地球儀と世界地図から捉える地球 2 日本の位置と領域 1 世界の国家群 2 世界の貿易 3 交通・通信の発達 4 国際的な人々の移動	
	二 学 期	第2編 世界の生活・文化の多様性	第1章 世界的視野から見た自然環境と文化 第2章 諸地域の生活・文化と環境	1 生活の舞台としての地形・気候 2 生活様式・基盤としての文化・産業 1 東アジア 2 東南アジア 3 南アジア 4 西アジア・北アフリカ	
	三 学 期	第2編 世界の生活・文化の多様性 第4編 身近な地域と地理的課題	第2章 諸地域の生活・文化と環境 第1章 身近な地域と地図	5 南アフリカ 6 ヨーロッパ 7 ロシアとその周辺諸国 8 北アメリカ 9 中部・南アメリカ 10 オセアニア 1 さまざまな地図とその果たす役割 2 地形図から読み取る身近な地域 3 主題図の作成	
学習方法	<p>【授業】 授業内容の理解に努める。端末や地図帳する。グループワークを行うことがある。</p> <p>【復習】 特に考査前には、学習プリント・まとめプリントを中心に復習すること。</p> <p>【予習】 特に必要なし。</p>				
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
	・地理的な事柄や、現代世界に発生している事象に関心があるか。 ・授業への興味、学習意欲があるか。(約10%)	・地理的な見方や考え方ができるか。 ・地理的思考から考察・表現できるか。(約30%)	・学習プリントをまとめること、分布図やグラフ、地図帳を利用することができるか。 ・地形図など、地図の読図ができてきているか。(約20%)	・地理的事象の基本的な知識を身に付け、その内容が理解できているか。(約40%)	
評 価 方 法	1 学期		2 学期	3 学期	年度末
	<p>※上記の4つの観点を基に、各学期ごとに評価する。</p> <p>(評価方法) 定期考査、課題、学習プリントのまとめなどによる到達目標の達成度をもとに、提出物、授業態度などを参考に、上記の4つの観点から総合的に評価する。 (考査点は、評価全体の8割程度)</p>				
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)					



地 理 B

愛媛県立宇和高等学校

教 科	地理歴史	単位数	3		対象	普通科 3年Ⅱ型
使用教科書	新編詳解地理B初訂版 (二宮書店) 新詳高等地図初訂版 (帝国書院)	副教材等	新詳地理資料 COMPLETE 2022 (帝国書院)		履修	必修修・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">選択</span>
授業の概要		到達目標			履修の条件・進路	
様々な地域の地域性を明らかにする中で、地誌的考察を行う。現代世界の課題に対して、関心を持ち、そして、認識方法や解決の方向性などを学ぶ。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地誌的学習の基礎的内容が理解できる、現代世界の諸課題の地理的考察ができる、基礎的問題が解けるようになる。</li> <li>・地形図等を読み取ることができる。</li> <li>・統計資料や地図帳、ICT機器等を活用し、考察・表現することができるようになる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次に地理Bを履修していること。</li> <li>・大学入学共通テストで地理Bを試験科目として利用できるレベルを目指す。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	一 学 期	第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察	第2章 資源と産業 第3章 人口と村落・都市 第4章 生活文化と民族・宗教	第4節 流通と消費 第1節 人口 第2節 村落・都市 第1節 衣食住 第2節 言語と宗教 第3節 民族と国家		
	二 学 期	第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察	第2章 現代世界の諸地域	第1節 中国 第2節 韓国 第3節 東南アジア 第4節 インド 第5節 西アジア・中央アジア 第6節 アフリカ 第7節 EU 第8節 ドイツとポーランド 第9節 ロシア 第10節 アメリカ 第11節 ブラジル 第12節 オーストラリアとカナダ		
	三 学 期		第3章 現代世界と日本	第1節 世界の中の日本 第2節 持続可能な社会に向けて		
学習方法	<p>【授業】 授業に集中し、内容の理解に努め、考察することを常に意識する。また、地図帳・資料集・端末を活用する。</p> <p>【復習】 要点ノートを中心に復習する。また授業で調べることができなかった地名等を、地図帳を利用し確認する。</p> <p>【予習】 周囲で起きていることに関心を持つ。また、新聞を読むこと、TVやインターネット等のニュースを見ることを意識する。さらに、必要に応じて、様々な問題を解く。</p>					
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の 技能		知識・理解	
	・現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を持ち、それを意欲的に学ぼうとしているか。(約10%)	・現代世界の地理的事象から課題を見出し、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、その過程や結果を表現できるか。(約30%)	・地図や統計、画像等の諸資料から有用な情報を選択し、活用すること、まとめ、発表することができるか。(約20%)		・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けているか。(約40%)	
評 価 方 法	1 学 期		2 学 期	3 学 期	年 度 末	
	※上記の4つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		(評価方法) 定期考査、小テスト、課題等による到達目標の達成度を基に、授業態度を参考に、総合的に評価する。 (考查点は、評価全体の8割程度)		1・2・3学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

公共

愛媛県立宇和高等学校

教科	公民	単位数	2	対象	生物工学科2年
使用教科書	高等学校 公共 (数研出版)	副教材等		履修	必履修・選択
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路	
人間と社会のあり方について見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を行う。		広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。		公民科の基礎となるもので、必履修である。	
月	単元名	学 習 内 容			メモ
学 習 年 間 計 画	1 学期 巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第2章 公共的な空間における基本原理	○ 生活の中の公共 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理 第1節 民主社会の基本原則 第2節 日本社会の基本原則			大人ってどんな人？、お互いを尊重するために、誰もが生きやすい社会へ 科学的・合理的な考え方、民主社会の倫理、他者とともに生きる、地球環境をめぐる問題、資源・エネルギーをめぐる問題、生命をめぐる問題、情報をめぐる問題 民主政治と基本的人権、権力分立と法の支配、個人と社会のかかわり、日本国憲法と基本原則、平等権・自由権、社会権・参政権・請求権、人権の広がり、国会のしくみと役割、内閣のしくみと行政機構
	2 学期 第3章 ルールをつくり守る私たち 第4章 政治に参加する私たち	第1節 法と契約 第2節 司法参加の意義 第1節 政治参加と民主政治の課題 第2節 国際政治の動向 第3節 国際政治の課題と日本の役割			法・規範の意義と役割、経済社会とルール、契約と消費者の権利、司法権と日本の裁判制度、司法参加の意義 選挙の役割と意義、政党の役割、地方自治の現状と課題、世論の形成と政治参加、国際社会と国際法、戦後の国際情勢、現代の紛争、日本の安全保障、日本の防衛体制、軍縮への動き、国際連合の組織と課題、世界の人権問題と日本
	3 学期 第5章 経済活動を行う私たち	第1節 経済活動のしくみと産業の変化 第2節 市場経済のしくみと金融 第3節 財政と社会保障 第4節 国際経済の動向と課題			経済活動のしくみ、企業の働きと役割、日本を支える中小企業と農業、産業構造の変化と職業、労働者の権利、現代の労働問題、市場経済のしくみと物価、国民所得と経済成長、金融の役割と金融政策、財政と租税の役割、公害対策と環境保全、少子高齢社会における社会保障、国際経済のしくみ、戦後の国際経済体制、グローバル化と現代の国際経済、地域経済統合、南北問題とその課題
学習方法	【授業】 授業に集中し、内容の理解に努める。副教材・ICT機器の使用、グループワークの実践等を行う。 【復習】 学習プリントを中心に復習し、授業内容を教科書・副教材を使用して確認をする。 【予習】 教科書を読み、基礎的・基本的な学習内容を大まかに捉える。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原則を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。		・よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
評価方法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。	1 学期	2 学期	3 学期	年度末
		(評価方法) 定期考査・授業ノート等による到達目標の達成度や提出物・授業態度・出席状況等を参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)					

公共

愛媛県立宇和高等学校

教科	公民	単位数	2	対象	生物工学科2年	
使用教科書	高等学校 公共 (数研出版)	副教材等		履修	必履修・選択	
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路		
人間と社会のあり方について見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を行う。		広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。		公民科の基礎となるもので、必履修である。		
学習の年間計画	月	単 元 名	学 習 内 容		メ モ	
	一 学 期	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第2章 公共的な空間における基本原理	○ 生活の中の公共  第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理  第1節 民主社会の基本原則 第2節 日本社会の基本原則	大人ってどんな人？、お互いを尊重するために、誰もが生きやすい社会へ  科学的・合理的な考え方、民主社会の倫理、他者とともに生きる、地球環境をめぐる問題、資源・エネルギーをめぐる問題、生命をめぐる問題、情報をめぐる問題  民主政治と基本的人権、権力分立と法の支配、個人と社会のかかわり、日本国憲法と基本原則、平等権・自由権、社会権・参政権・請求権、人権の広がり、国会のしくみと役割、内閣のしくみと行政機構		
	二 学 期	第3章 ルールをつくり守る私たち 第4章 政治に参加する私たち	第1節 法と契約 第2節 司法参加の意義  第1節 政治参加と民主政治の課題 第2節 国際政治の動向 第3節 国際政治の課題と日本の役割	法・規範の意義と役割、経済社会とルール、契約と消費者の権利、司法権と日本の裁判制度、司法参加の意義  選挙の役割と意義、政党の役割、地方自治の現状と課題、世論の形成と政治参加、国際社会と国際法、戦後の国際情勢、現代の紛争、日本の安全保障、日本の防衛体制、軍縮への動き、国際連合の組織と課題、世界の人権問題と日本		
	三 学 期	第5章 経済活動を行う私たち	第1節 経済活動のしくみと産業の変化 第2節 市場経済のしくみと金融 第3節 財政と社会保障 第4節 国際経済の動向と課題	経済活動のしくみ、企業の働きと役割、日本を支える中小企業と農業、産業構造の変化と職業、労働者の権利、現代の労働問題、市場経済のしくみと物価、国民所得と経済成長、金融の役割と金融政策、財政と租税の役割、公害対策と環境保全、少子高齢社会における社会保障、国際経済のしくみ、戦後の国際経済体制、グローバル化と現代の国際経済、地域経済統合、南北問題とその課題		
学習方法	<p>【授業】 授業に集中し、内容の理解に努める。副教材・ICT機器の使用、グループワークの実践等を行う。</p> <p>【復習】 学習プリントを中心に復習し、授業内容を教科書・副教材を使用して確認をする。</p> <p>【予習】 教科書を読み、基礎的・基本的な学習内容を大まかに捉える。</p>					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>	
評価方法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		1学期	2学期	3学期	年度末
			(評価方法) 定期考査・授業ノート等による到達目標の達成度や提出物・授業態度・出席状況等を参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

政治・経済

愛媛県立宇和高等学校

教科	公民	単位数	3		対象	普通科3年（Ⅰ型・Ⅱ型文系）	
使用教科書	高校政治・経済新訂版（実教出版）	副教材等	フォーラム現代社会2022 （東京法令出版）		履修	必履修・選択	
授業の概要		到達目標			履修の条件・進路		
現代の政治、経済、国際関係の動向や本質を探究し、それらに関する客観的な見方や考え方を深め、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。		広い視野に立って民主主義の本質に関する理解を深め、現代の政治、経済、国際関係等について客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題を主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。			条件はありません。		
学習の年間計画	月	単 元 名	学 習 内 容				メ モ
	一 学 期	第1編 現代の政治  第2編 現代の経済	第4章 現代日本の政治  第5章 現代の国際政治  第1章 経済社会の変容 第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上				
	二 学 期	第2編 現代の経済 第1編 現代の政治	第4章 世界経済と日本  第1章 民主政治の基本原則 第2章 日本国憲法の基本的性格 第3章 日本の政治機構				
	三 学 期	第3編 現代社会の諸課題	① 地域社会の変貌と住民生活 ② 中小企業の新しい変化 ③ 農業、農村と食料、環境問題 ④ 雇用と労働をめぐる問題 ⑤ これからの社会保障のあり方 ⑥ 地球環境の保全と経済成長 ⑦ 原子力と再生可能エネルギー ⑧ 人種・民族問題 ⑨ 国際経済格差の是正と国際協力 ⑩ 国際社会における日本の立場と役割				
学習方法	<p><b>【授業】</b> 授業を「受ける」のではなく、授業に「臨む」という主体的な態度が求められる。板書をノートに記すだけでなく、説明内容をメモしたり、発問に対して挙手・発言する等積極的に参加することが大切である。</p> <p><b>【復習】</b> 該当範囲の教科書とノートを振り返り、「分かった」ところを確認し、「分からない」ところを調べたり質問をしたりして「分かる」に到達する。</p> <p><b>【予習】</b> 該当範囲の教科書を読み、内容をある程度つかんでおく。</p>						
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能		知識・理解		
	・現代の政治・経済・国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究し、平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察できたか。（約10%）	・現代の政治・経済・国際関係に関する諸問題について多面的・多角的考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現できたか。（約30%）	・現代の政治・経済・国際関係に関する諸資料を様々なメディアを通じて収集し、有用な情報を適切に選択して効果的に活用する学び方を身に付けられたか。（約10%）		・現代の政治・経済・国際関係に関する基本的事項や、本質、特質、動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けられたか。（約50%）		
評価方法	※上記の4つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1学期	2学期	3学期	年度末	
			（評価方法） 定期考査・授業ノート等による到達目標の達成度や提出物・授業態度・出席状況等を参考に、上記の4つの観点から総合的に評価する。（考査点は全体評価の8割程度）			1・2・3学期の平均	
到達目標に対する自己評価 （A・B・Cの3段階）							